

弘南鉄道大鰐線の 記憶を残すために

中園 裕

(地域生活文化課
県史担当 総括主幹)

弘南鉄道大鰐線は2027(令和9)年度末に運行を休止し、路線廃止に向けた手続きに入る。後世に記録を残したい。基本的な情報などは、鉄道愛好家のブログな

どに多数書き記されるだろう。本稿では、意外なものが歴史の資料になることを書いておきたい。地方の私鉄にとって、子どもたちの通学利用は大切な収入源となる。沿線に学校名を冠した駅が多いのはこのためだ。石川駅も石川小学校や石川中学校へ通う子どもたちが多く利用していた。朝、駅を降りた子どもたちは、平川に架かる御幸橋を渡り、石川歩道を渡って学校へ通っていた。朝



写真1 事故防止を呼び掛ける看板=2025(令和7)年9月27日・筆者撮影

や放課後の通学時間には、駅界隈が子どもたちの声でにぎわったものだった。しかし近年は少子化に加え、親に送り迎えされる子どもが増えたため、駅の利用数は少なくなっている。

写真1は駅舎とホームをつなぐ踏切の前に掲げられた看板だ。多くの子どもたちが利用する駅であることを物語っている。制作は石川小学校のPTA。立派な体格の駅員が赤い旗を持ち「線路やホームでふざけていると、最悪の場合、死にます」と訴えかける姿は衝撃的である。

鉄道愛好家がブログ等で紹介する名物看板のだが、子どもを鉄道事故の犠牲にしたいくない親たちの願いが込められたものでもある。大鰐線がなくなれば役目を終え、撤去されるかもしれない。多くの子どもたちが利用した大鰐線の歴史を物語る歴史資料として、ここに紹介しておきたい。

石川駅の南東に大仏公園がある。かつての石川城の跡地で大仏ヶ鼻城ともいわれる。石川城は、後に弘前藩初代藩主となる津軽為信に攻略されるまで、南部氏の重要な軍事拠点だった。

石川城が大仏公園として整備されたことから、石川地区の人たちが大仏ヶ鼻城に愛着を寄せていたことがわかる。地元の菓子屋である「御菓子処むらかみ」も、かつて「大仏餅」という菓子を販売していた。

むらかみが閉店した現在、大仏餅は購入できなくなった。このため筆者が以前購入した菓子箱を掲載しておこう(写真2)。看板や菓子箱など、一見歴史資料とは思えないようなものも、大切な記録資料になるのである。



写真2 「大仏餅」の菓子箱=2025(令和7)年9月28日・筆者撮影